

.....

私が訪ねたのは、クリスマスも終わった厳寒の2月。  
スイスアルプス、奥深い寒村での出会い。  
季節はもう2月なのに、ホワイトクリスマスのイメージ。  
外は、しばれるような肌を刺す寒さなのに  
なぜかあたたかく感じたものである。

この旅は、**列車の旅**だった。  
乗り放題のスイスパス入手し、スイス中を駆けめぐった。  
ジュネーブを出発点に、ローザンヌ、モントルーのレマン湖周辺から、  
バーゼル、チューリッヒ、サンモリッツと  
**スイス全域を気の向くままに**。取材画像(素材)は、膨大な数量。

車窓を楽しむだけでなく、小さな駅にも下車。  
**直感で選択**。途中下車を繰り返した。ほんまもんの旅らしい道草の旅。  
スイスを取り巻く周辺国の街々も興味深い。  
**イタリアのマジョーレ湖のあるストレーザ、フランス、シャモニーにも足を伸ばした**。  
国境や辺境は、興味をそそられる領域。**一定の距離までは無料**だった。

**この旅の始まりは、スイスの三大名峰の一つ、  
マッターホルン**からだった。周辺の山々にも足を運んで取材、宿泊。  
谷の向こうの**アレッチ氷河地域**にも3泊。  
そして、**ユングラフロウ**や、**アイガー山**にもと欲張ったひとり旅だった。  
出来る時に出来ることを実践。またという機会が少ないのが現実。  
フットワークのいい久楽。面目躍如である。  
すでに宿泊を重ねているので、雪への抵抗感はなくなっていた。**画像は、足跡の証明**。  
住人ではない。私は旅人だが、雪が大好きである。

そして、ブリークから、**ユングラフロウ**をめざした。

まず、**インターラーケン**まで行き、途中下車。

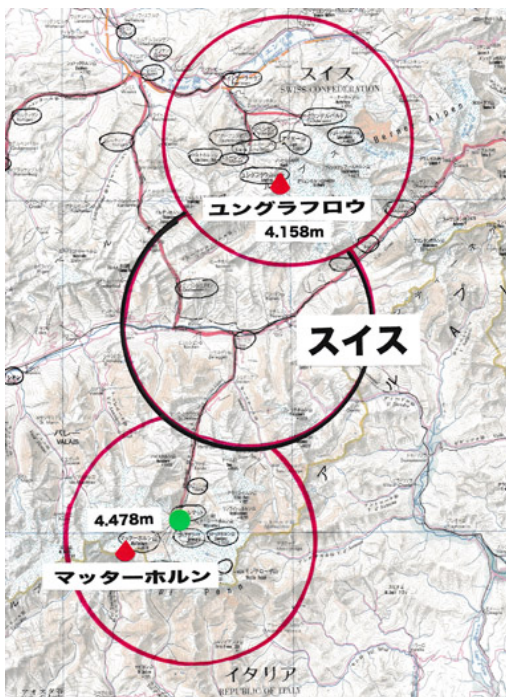
湖の船が動いていれば乗船し、今一度、船から見る景観を見たかった。

ブリークから山深い断崖絶壁の上を列車が走る。

**かなり厳しい場所を通過するので、列車は減速**され、よく見えた。

眼下は谷底。車窓から見る光景は圧巻。スイスアルプス。

この感動、なんとか残せないだろうか、ふと、よぎった。



なんというご縁、待っていたかのように、名前も知らない小さな駅に停車。

また直感。**後先忘れた無謀？な冒険が始まった。**

**峠の頂きにある、組まれた木枠だけの小さな駅。**ホームに、**足跡が少しだけ**あった。

**おもわず下車**してしまった。

その小さなプラットホームから見える光景に、しばらく酔いしれた。

しかし、その時間は、ほんのわずか。身体の芯まで冷える。ともかく寒い。

服装もあたたかくしないと、どうにもならない。

階段を下り、改札口に向かった。重ね着もしたかった。

あたたかい**ショコラも飲みたかった。**

改札周辺か、駅周辺に何かあるだろう。軽い気持ちだった。

予想に反し、改札も簡素。駅周辺も、2～3軒の家以外、お店など全くない。

眼前は岩壁。**周辺は、白一色の雪景色**だった。

小さな駅のプラットフォームからの眺望、これだけで下車して充分満足、価値があった。

ふと、この光景、見たことがあるような・・・ ???

**既視感**。そんな思いを抱きながら、次の列車の時間も確認と、戻りかけた時、

**ポストバス**が、出発するところだった。

「乗らないのですか」と声をかけていただいた。

あまりに雪の多さに行くべきか迷ったが、皆さん、平気な顔をされている。

**行き先の名前を聞いてもわからなかった。**

しかし、素朴な人の良さそうな、**面々の笑顔に引き込まれた。直感。これも何かのご縁。**

**山より大きな獅子も出まい。何とかなるだろう。**

もちろん、宿など決めていない。宿がないかもしれない。

国の信用、イメージがものを言う。今の日本は、日本人は、どうなのだろう。

少しだけ、旅慣れている。スイスは金融国。信頼がおける国との認識。

駄目なら駄目でいい。戻ればいい。そんな軽いので、いつものように、道草を開始。

バスの**車窓からの光景**は、私には**感動の連続**。

村に行くまでの道中、**岸壁をくり抜いたトンネルを、いくつも抜けた。**

**眼下は谷底。断崖絶壁の道を走るバス。**

景観は最高ののだが、いささか一抹の不安も・・・

途中、村もバス停らしき場所は全くなし。**1時間近く**、走ったのではないか。

トンネルを、その後も、いくつも抜けた。

ふと、**遠景に、この教会が見えた。**素朴で**スイスらしい家並み**が残っていた。

家々の軒下に、秋田県の「なまはげ」に似たような恐ろしい表情の面がかけてあった。

そして、この教会に近づき、通り過ぎようとした時、見たことがあるような・・・

いや、来たことがある。見た位置も、季節も違うが、思い出した。

バスの**最前列に乗車していた。**運転手さんに声をかけ、思わず下車してしまった。

思えば、7年前の夏、ナポレオン時代の衣装を身につけた衛兵、

記念日だったのだろう。教会の儀式？ 村の人たちもすべて民族衣装で着飾っていた。

**印象的が強烈。画像も残っている思い出の村だった。**

今は、何もない白一色の雪景色。宿も見つかった。**次々と、事が運ぶのが不思議、**

まさに、**ラッキー、スマイル、オン、ミー。**

宿とレストランが一緒。前回も、この宿だったのではないか。

**不思議なご縁の再会。**不安があっただけに、何とも嬉しい気持ちになった。

夕食のダイニングの窓からの雪景色、**使いこなし、木のテーブル、**

重厚な艶で光っているテーブル、歴史を感じる。そして、小さなローソク。

この時は、夏ではなく、厳寒の2月。

本場の**フォンジュ**を注文。チーズとワインのブレンド、郷土料理を堪能した。

宿とレストランが一緒だったこともあって、ワインも一本。いささか飲みすぎだったが、

その夜は、疲れていたこともあってぐっすり。**快食、快眠**の1日になった。

私のホワイトクリスマス。スキー場があったので2泊。

翌日、ここを起点に、東に西に、南に北に、もちろん、スキー場の頂上へも・・・

厳しさのあとの素敵な出会い。**神様は試練だけでなく、時々、粋な計らいをしてくれる。**

宿から教会も見えるベストポジション。訪ねてよかった。

帰国後も、**お便りや資料をいただいた。**いい思い出は心の財産。

**夢絵として創作したのは言うまでもない。**